

第33回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和7年9月24日（水） 午後7時00分～8時30分
- 2 開催場所 オンライン
- 3 参加者 市長及び市民6名
- 4 会議次第 (1) 開会
(2) 市長あいさつ（市政報告）
(3) 懇談（フリーテーマ）
(4) 閉会

5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	公民館の有料化について	3点あります。まず、令和7年度の施政方針の文化と生涯学習の分野の中で、公民館について「公民館が地域との連携、多世代が集える地域の拠点となる」というようなことを述べられています。 今までも公民館は、公民館で課題を学び、それからグループをつくって地域を良くする活動をしてきたと思っていますが、市長の公民館への活動に対する今後の期待を少し話していただきたいと思います。 2点目、最近公民館の施設使用料の導入ということが小金井市民も含められて検討されています。公民館は特定の人が利用しているので、受益者負担の考え方を公民館の施設使用料にも適用すべきだというのが一つの根拠になっていると思います。 逆に言いますと、公民館というのはそこに来た人が学ぶだけではなく、その結果としていろいろな団体ができて、地域を良くする活動をやっている。そういうことを含めると、公民館に来た人の人数だけで受益者負担という考え方を取るというのはおかしいと思います。公民館というのは、それだけ市全体の活動を良くしているから、基本的には一部の人の活動ではありません。受益者負担が適用できないのではないかと考えていますが、市長はどう考えておられるでしょうか。 3点目、小金井市の提言書でも、公民館の使用料を有料にしようとなっています。使用料についての考え方として、令和3年に教育委員会から出された小金井市公民館中長期計画の中では、憲法等の3つの法律を基にした考え方で、基本的には無料とされています。 私は、公民館の本来の活動をやっている内容については当然無料だという考え方を持っています。今回の施設使用料の導入というのは、基本的には無料で、塾や営利目的といったものについては有料にすべきだと考えています。まだこの段階で市長は言いにくいと思いますが、漠然と何か言えればお話をしていただきたいのですが、いかがでしょうか。	小金井市の公民館活動は、全国的にも貴重な学びの場として活動されてきたと認識しています。先日の講演会「99歳からのメッセージ」でも、大人になっても学ぶ場として公民館があり、自分たちで地域の課題、もしくは自分たちがしっかり生活を良くしていくために何ができるかということを、共に学び合いながらつくっていく、こういう場だったというお話もあったと思っており、それをずっと体現してきたのが小金井市の公民館だと私は認識しています。市民の皆さんにとって新たな教養であったり、学びであったりというだけではなく、それが実際の生活を良くしていくという、何かしらの活動や動き、知恵に結びついていくということが非常に重要だと思っています。 私も、最近はなかなか気軽に聴きに行くことはできていませんが、実際に様々な公民館講座なども聞かせていただき、企画実行委員で自分たちで講座をつくっていくということを私自身も学ばせていただいたので、それ自身が地域の学びの拠点であるというふうに捉えてきたところです。 2点目については、いま仰られたとおりだと考えています。いろいろ論点はあったと思いますが、私自身が現場の状況を聞いていて課題だと思ったのは、お金を取る習い事のようなものは、公民館ではなく別のところをきちんと利用してもらうべきで、そういう使われ方をされているという点です。ですから、今までの活動に何か問題があったというよりは、そういう使われ方をしていて、本来使われるべき使い方ができていないのはもったいない。そういう意味で、先ほどお話しをした使われ方で最大限使っていただくというのが、私としては理想だと考えています。お金を取るのが前提ではないということです。 3点目の、今後どういう方向性で実際に行っていくかについては、教育委員会の中で検討しているところもありますので、調整をしていきたいと思っています。
		公民館の市民参加と有料化を導入する目的、また、そもそもの公民館の受益者とは誰かということです。 先日、公民館主催の利用者懇談会という形で、利用者の市民と公民館運営審議会の皆さんと、今後の公民館の有効活用と施設使用料の導入について意見交換の場がありました。そのときの職員側の説明として、公民館が老朽化してきている中で、持続可能であるためには、まずは受益者負担と	使われ方も含めてそれを整理するということと、空いている部分は有料で貸し出しても良いのではないかと、最大限活用していくという、こういった考え方が有料化の議論をするに当たっての重要な論点だったと認識しています。 2つ目については、受益者というのは利用している本人だけではなく、地域全体であるというこの答弁は、非常に重要だと私も考えています。 老朽化対策のためにという点は、担当課としては考えざるを得ないというところがあり

		いう部分も含めて施設使用料を一定負担していただく。つまり、公民館を使っている方はまだ非常に少なく、公民館の施設全体で使われているのは6割で、4割は空いているとこれまで聞いていましたので、その4割の空いている部分をもっと有効に活用するために、公民館法も変わったことだし、社会教育法も変わったことだし、利益目的の方たちにも有料で使ってもらえるような、そうした改正をしていこうということがあったのではないかと理解しています。そこについての、市長のお考えをまず伺っておきたいというのが1点目です。 2点目は、先ほど参加されている方の御意見の中で、市長は、受益者についての考えは同様ですとおっしゃっていました。 公民館活動というのは、使っている方たちが自分たちの利益のためだけに使っているのではなく、その活動が地域を良くすることであり、コミュニティの醸成にもつながる活動であるため、公民館活動の受益者は、地域だろう、公民館だろうということが言われています。私はずっとそう考えましたが、最近の議会の議事録を見ますと、前生涯学習部長の答弁の中で、公民館における受益者とは必ずしも利用している人たちだけではなく、地域という考え方もありますというようなことがありました。これはとても大きなことだと思うんですが、であれば、公民館の施設が老朽化してきているとか、古くなくなってきたから、それを持続可能にするために使用料を導入するというのではないかと考えてよろしいのかどうか。 3点目は、どちらにしても使用料というものが導入されていくのであれば、当然減免あるいは免除ということもあると思います。先ほど、市長も、本来の公民館の活動をしている方たちに有料化を導入するということを前提として考えていないというお考えが述べられました。であれば、明確なルールが必要だと思います。今後規程をつくっていくということまでは、まだ公民館運営審議会の皆さんも確定されたものはなかったと考えています。市民参加で物事を進めていく小金井市ですから、また学習の場、生涯学習の場でもある公民館ですから、非常に多くの方が公民館には関心を持ち、関わっておられます。そうした市民参加で、今後の公民館の施設使用料導入のルールづくりについては、公民館運営審議会だけではなく市民参加の検討する場というものをぜひつくっていただきたいと思いますが、市長はどうお考えでしょうか。 教育委員会の案件ですし、現場の職員が頑張っているということも重要なことだと思っています。私たちも、市民と職員が信頼関係を持つことが公民館活動においては本当に重要なことだと思っていますので、職員を困らせるつもりは全くありません。一緒に同じ方向を向いているということを、確認する場が欲しいんです。 先日利用者懇談会を開催しても、公民館のほうからも異議があったということですので、公民館運営審議会のように、選ばれた方たちだけではなく、使っている方たち、現場を知っているとか、現実を知っているとか、地域を知っている方たちの声が重要だとお考えであれば、市民が公民館と一緒に作りましようと考えているということを、市長から、それが小金井市の公民館だということを、ぜひお伝えいただきたいと思います。	ますので、一概に否定はできませんが、ただ、それを本来の目的にするというのは違う一面もあるとは思っています。 3点目については、教育委員会案件ですので、私のほうからは勝手に答えられませんが、こういった御意見があったということについてはしっかり伝えさせていただきます。
--	--	---	--

2	小金井市の課題について	私も1歳の子どもがおり、共働きで保育園に通っています。廃園の件などもあったかと思いますが、私自身、選ばなければ園の数は足りているのかなという印象はあると思っています。 小金井市は今人口が増えているという感じなのでしょうか、若い子育て世代が大勢引っ越ししてきており、私もその一人ではありますが、そういった中で、保育園の数が足りてきたということで、ある程度保育園関係というのは一段落なのかなと思っているんですが、市が次に抱えている課題のようなものには、どういうものがあるのかをお聞きしたいです。	まず、保育園の件は、今から10年ぐらい前に待機児童問題というのが大きな問題になって、この間、保育園を増やしてきたところですよ。それも含め、逆にここ5～6年で0歳児はずっと減ってきています。今、日本全国で少子化というのが想定以上に加速化しているというのがあり、小金井市でも一旦ぐっと増えたものが、また減り始めているという状況はあります。目で見てすぐ減ったというほどのものではありませんが、数としては減ってきているのは確かです。 この間、保育の質というものに、この間、あまり取り組めていなかったという課題があります。数的な問題はクリアをしていますので、次はそれをしっかりやるというのが、保育園についての今の課題の一つでもあります。 今回、在り方を含めて検討したというのは、公立保育園についてだけではなく、公立保育園が民間保育園との連携をさらに深めて、市全体の保育の質の維持・向上に努めていこうという仕組みづくりとして、先ほど説明した内容のことを整理したところですよ。 子ども関係の課題で言うと、ここ5～6年はずっと、学童保育所が大きな課題であり、まだ解消の見通しがうまくできていないということです。要するに、学童保育所のスペースが足りないということです。今までは、市が関わっているものは市で設置している学童保育所だけでしたが、そこではもう足りないということがあったので、ここ2年間で今進めているのは、市基準に沿って運営していただく民間の学童保育所を誘致して、補助金を出すということを進めています。 子育てで言うと、学童保育所のスペースをどう確保していくのかというところが大きな課題の一つとなっています。
3	保育園の課題について	認可保育園でいった場合の、保育の質のようなどころでの課題感のようなのは、何かあったり、その中で優先順位があったりはするんですか。	まず、基本的には認可保育園も、国の保育指針というものに基づいて基準が法律で定められていますので、その範囲内で日々、現場の保育士の皆さんはしっかり子どもたちと向き合って保育をしていただいているというのが前提となります。 認可保育園、認可外保育園と様々な形態があるものの、公立も民間も関係なく、子どもをどう育んでいくかという視点に基づいて運営しているというところではありますが、例えば最近、ある民間保育園で、外に遊びに行く時に園の中に置き去りにしてしまったという問題が起こったことがありました。最近あったこととしてはその1件ですが、日々の保育の中で少し漏れてしまうようなところは、公立園だって全く何もないわけではありませんが、例えば小金井市でもそれが起こってしまったことがあります。公民問わず、全国的な色々な保育園の中でも、保育事故のようなものは、報道され続けます。先ほども言いましたが、待機児童対策として量を増やすということに主眼を置き過ぎてきたところがあるのではないかということは、社会的な問題として今提起されています。私自身も市議会議員時代からそういうことを感じるところがあったので、保育の質の問題については、市議会議員、そして市長になってからも、まだ施設としてやるべきことをしっかりやっていく必要があると思い、今も取り組んできています。
4	保育園におけるおむつのサブスクサービスについて	実際に子育てをしている者として、保育園も、共働きが当たり前になって0歳から1歳で入れてとなると、保育園の準備や育児、家事を、時間のない中でやらなければいけないというところが、自分も子育てをしてみようと思ったところですよ。本当に、親は時間がなかったんだと改めて思っているところがあり、保育園は保育園で、先ほどの置き去りの話もありましたが、保育士さんの余裕もないよなというのを見ていて思います。それが悪いこととか、そういうことではなく、お互いに大変だと思うところはある	おむつのサブスクについては、昨年あたりに企業説明を聞いたりもしました。確認はできていませんが、民間の保育園によっては導入しているところもあるという話も聞いてはいます。 いま仰られたように、保護者の皆さんが忙し過ぎて、子育てが大変だという困った部分を、例えばそういったサービスを導入することによって、部分的にでも積み重ねて解消していくと、子育てに余裕ができていくんじゃないかというご意見は、たくさん頂いています。

		ます。そういった中で、一つの何かやらなければいけないことがあっても、それを保育士がやるのか、親がやるのかというような、押しつけ合いのようなことが、どうしてもあったりします。 おそらく、保育園に登園した後の準備などもそうだと思うんですが、極力保護者にやってもらうというようなところが、まさにそういう話かなと思っていて、かといって保護者がやりたくないからと保育士さんにやらせるのも忍びないと思う部分もやっぱりあるなというところですよ。いろいろ調べると、おむつのサブスクサービスなど、少しずついろいろな自治体で導入するところが出てきているようです。寝具の乾燥は既にされていて、確かに、聞いていた布団を持ち帰るようなことは無くて、すごく助かってはいるんですが、おむつのサブスクのようなサービスを導入するというような、そういった部分での保護者に向けた支援策については、課題とか、何か考えていることはあったりするんでしょうか。	そうはいっても、市として実施する分については、それなりにニーズというものがどうなのかとか、効果はどうなのかということを見定めないとけないところがありますので、検討する必要性は感じてはいますが、何をすればいいかというところについては、正直なところ市としてまだ検討が十分できていないというのが実情です。 逆に、例えばこういうものだったらニーズが高い、ということをいろいろ声として聞かせていただければ、それに対して市として検討すべきかどうか考える余地があると思います。 今の段階で具体的に検討できる状況ではありませんが、ただ、困った部分があるということは、たくさんの方のそういった声は聞いていますし、感じているところではあります。
5	インクルーシブ教育について	私自身、障害のある子どもがおり、様々なネットワークに参加しながら、保護者の方々とコミュニケーションを取っています。インクルーシブを、今後小金井市はどのように進めていくのかというところをお伺いしたいんですが、具体的に何かインクルーシブの政策として考えられていることはありますか。 実は、市の方と障害があってもなくても遊べるという話をしたのはうちの者で、障害があっても遊べるという言葉はどんなのかなということで意見もさせていただいたんです。 確かに、環境を整えるという部分はそうなんですが、実際に教育の場面では、認可園でありながらも、障害があると無理ですということで入園をお断りされるばかりで、市に相談しても、既に紹介をしましたのでというような塩対応をされて辛い思いをしました。 今回、小学校に上がるということで就学相談に関わっていて、うちはまだ判定は出ていませんが、聞くところによると、ある小学校の支援学級の先生が「あれができないのであれば来ないでください」というような冷たい言葉をされて、親が市と戦わなければならない、辛い思いをしているということがありました。 さらに、8月のイベントの際に、教育長の「普通の子は普通の学校に行けばいいし、そうでない子は支援学校へ行けばいい」というような発言を聞いて、すごく辛い思いをしているというのが現状なので、何とか教育の場面でしっかりと受け入れていくという方針を出していただければなという思いでいるんですが、いかがでしょうか。 私は、大阪のように通常の子と障害のある子が一緒にというのは、やはり難しい部分もあると思います。学校には支援学級というものもありますので、支援学校、支援学級を今保護者の選択によって決めることができと思いますが、支援学級に入った場合に、市として加配を1人つけるとか、配置人数とか、予算の部分とか、措置を柔軟に考えていくことで、それが受け皿となり、受皿があることで保護者は大分安心できると思います。 ただ、医療看護とかが必要な児童については、やはり支援学校に行っ	範囲がとても広いので、いま進めていることについて言いますと、まず、公園をインクルーシブな場所にしていこうという取組として、栗山公園、梶野公園、三楽公園という3つの市立公園を、インクルーシブデザインに配慮した公園づくりという考え方に基づいた整備を進めているところです。 私が市議会議員のときから言っていたんですが、もともとは、今から7、8年前に都内でインクルーシブ遊具というものが出始めて、それを小金井市でも考えようということとで始めました。 ただ、現在あちこちの公園で課題になっているのは、遊具を置いて終わりだったということです。そのため、この事業を進めるにあたり、地域の方々、障がい者の方、そういった支援に関わっている方々、いろいろな方々にインタビューをする中で、別に遊具があれば良いというわけではないというお話があって、公園というのは、本来誰もが自分なりに気軽に遊んで過ごせる場であるにもかかわらず、実際はそういう場所になっていなかったということに改めて気づかされたところです。 そういったことも踏まえて、3つの公園で、どうインクルーシブデザインに配慮した公園にするかというのをこの間いろいろ検討してきた結果、今のように整備しているところです。 そういうこともあって、整備して終わりではなく、整備するというのはいっつのきっかけだと思っています。公園の担当課は環境政策課という、これまで障がいのあるお子さんとの関わりがなかった部署ですが、公園こそが誰でも立ち寄れる、要するにインクルーシブ、共生社会を実現できる場ではないかということで、まず公園づくりに力を入れて取り組んでいるところです。 私自身も、例えばインクルーシブ教育とかインクルーシブデザインということにそんなに詳しいわけではありませんが、かつて大阪の大空小学校をテーマにした「みんな学校」という映画の上映会に関わったことがあります。要するに、障害のあるなしに関係なく、みんなが同じ場所にいる、みんなで助け合って、学校というのは子ども同士が刺激合って生きているというもので、本当に映画は感動するものでしたが、そういう場所が良いという場合もあれば、必要な支援をしっかりと受けられる場所のほうが良いという御意見の両論あると思っています。私自身が大阪出身で、大阪はどちらかというとインクルーシブな考え方だったではないかと思っています。

		ちゃんと命を守ったほうが良いとは思いますが、ですの、全員一緒ではなくて、可能な範囲で受け入れるところをつくっていただけると嬉しいですよ。 我々のネットワークの中では、門前払いというイメージがすごくあるので、適切な助言をいただきながら市と一緒に考えていきたいというのが正直なところですよ。	私の子ども時代も、ダウン症の子と一緒に過ごすというのが当たり前だったので、何の抵抗もありませんでしたが、その子の発達を考えた場合、必要な支援をしっかりと受けたほうが良いのではないかと話も聞きますし、どうすれば良いのかという明確な答えを持っているわけではありません。 ただ、大切なのは親御さんの考え方であり、個の社会性をどう身につけていくかという、そういう場として教育の場というものはあると思いますので、そこが恐らく納得感のないやり取りが行われていることが、まず問題なのではないかと思えます。 今すぐ完全にインクルーシブしようということも言えませんし、それが良いのかどうかも私としてはなかなか判断難しいところですよ。 まず今のところは、選択肢が十分でないということと、その子のためにどういう場所がよいかということについて納得できる相談場所がないということかと思えます。 門前払いという言葉が出てきましたが、保護者の方がそう感じているというところが、まず相談の入り口として問題じゃないかという声をいただいたということで、まず教育委員会と話をしてみたいと思います。似たようなお声は聞いているかもしれませんが、対応した職員の伝え方に問題があったのかも分かりませんし、それも含めて、こういう厳しいお声をいただいていることは担当に伝えます。
6	A I を活用した溺水事故防止について	溺水事故の対策について、個人での話ですが、市に協力していただきたことがあります。 メガロスで小学生が亡くなったという痛ましい事故が起きまして、私も娘が小学校に通っており、メガロスの学童にもお世話になっていました。 私は、農工大でロボットを作らせていただいているんですが、亡くなったお子さんを知っていたので、私自身、非常に心理的に思うものがありました。そこで、個人的に何かできないかと思い調べてみたところ、日本では、毎年プールで5、6名がプールで溺れて、死亡する方も多いとわかりました。 子どもは静かに溺れるので、発見するのが非常に難しく、10人ぐらいでプール教室をした場合、1人か2人で監視するのはほとんど不可能です。私は子ども2人を連れて栗山公園のプールによく遊びに行くんですが、2人でも正直怖いと感じます。 監視員2名ではそもそも不可能ではないかと思い、そこでちょっと考えたのが、A I による溺水検知、監視員だけではなく一般客の方も見られるような形でできたらどうかと考えており、そういったものをオープンソースにして、世の中一般に、どの方にも無料で使っていただけるようなものがないかなと思っています。 ちょっと見ていただきたいのですが、【参加市民作成動画視聴】これを丸2晩ぐらいかけて作ってみたんですが、まあまあ機能するぐらいのところですよ。私がほぼ毎日のように、栗山公園のプールで泳いでいるせいもあり、館長にお願いして動画撮影をさせていただきました。こういったものをやろうとすると、画像や動画データがたくさん必要で、これがないと始まらないというものがあります。そこで、何とかどこか撮影させていただけないかなと思っています。 【参加市民提供動画視聴】人が大勢いるので、じっと見ていても分から	担当のほうでどう判断したのかということを確認できてないので、ここで私が良いですよとは言えない状況とであることは御理解ください。 担当にも確認してみますが、お話を聞いていて、こういうものは必要だとは思っています。

		なかったと思うんですが、1名の溺水事故が発生しているときの動画です。これは海外のもので、この時は助けられているんですが、参考データとするためのこういった動画は、国内でも海外でも固定の監視カメラで撮影されているものはありません。プライバシーの問題があるので当然だとは思いますが、泳いでいる私自身を撮影しますので、動画データを作成するために、市のプールを営業時間の前後10分ぐらいで使わせていただきたいというお願いです。 現状、栗山公園の館長には非常に丁寧にに対応してもらい、不快感なども全くなく、前向きに話も聞いてくれたんですが、6回の打合せの中で話に出してもらったところ、市の担当者からは不可、メガロスからも不可という連絡をいただいています。ほかのところにも頼んでいるんですが、やっぱりプライバシーの問題などでなかなか厳しくて、清掃する時間などでも良いので、何とか10分ぐらい、そういった時間を借りられないかというお願いです。 今ここで何かして欲しいというわけではなく、あちこちのプールに見に行ってみると市のプールが一番良かったんですが、メガロス自体は割と監視がされている部類で、本当にひどいところもあって、調べれば調べるほど、どう考えてもこれは事故が起こるよなという感じでしたので、何かぜひ前向きに検討いただけたらと思います。それに関わる費用は、もちろん私のほうで個人的に負担したいと思っているので、何か御協力いただけたらと思います。	
7	子どもの権利の日の制定について	子どもの権利の日の制定についての進捗等々、見込みについてお聞かせいただきたいと思います。	子どもの権利の日の制定については、既に子ども・子育て会議の子どもの権利部会のほうで御意見をいただいているところですので、今言えることとしたら来年度制定することに向けて着実に動いているということです。
8	CoCo バスについて	先ほど出ました路線バス、CoCoバスについての提案というか、意見というか、実際私の住んでいるエリアもそうですし、今武蔵小金井駅から小平団地に行く路線バスも大幅な減便をされています。京王バスのシフトが組めない、運転士さんが不足しているという状況を見て思ったんですが、例えば業者を替えるというお考えはあるのかどうか。というのは、私は国分寺市の市境に住んでいるんですが、国分寺市の市営バスは確か2か月ぐらい前に、京王バスから運営業者を替えています。今、料金は上がりましたが、同じ水準で運行してくれています。ですので、どうなのかというところをお聞きしたいです。	CoCo バスの件については、現在京王バスさんに5路線中4路線を担っていただいています。事業者を替えるということは考えておりません。 小金井市に対して京王バスから出された申し入れは、2年半後から運行を停止したいという、猶予を持ったものでした。そのため、まず京王バスさんと協議をしたところ、一概に運行を停止したいというわけではなく、ドライバー不足で困っているということで、これを何とか解決しないとできませんという話でした。そういったこともあり、しっかり協議した上で方向性を見いだしたので、それらを含めて京王バスさんと共に、小金井市が設置している公共交通活性化協議会に部会を設置し、そこで具体的な解決策を見いだしていこうという話になりました。選択肢として事業者を替えるというものはあったかもしれませんが、今どこも同じようにコミュニティバスから撤退するという流れもある中で、国分寺市さんはうまく違う事業者を見つけましたが、どこもドライバーに困っていることは変わりありませんので、そういう意味でいうと、京王バスさんは大手のバス会社であり、路線バス等も含めて様々な調整を行うという可能性もありますから、そういう中で進めているところです。 10月の段階ではオープンハウス、それから地域懇談会というものをやりますので、そこでどういったルートの変更や、運行の変更をすることによって、2つの路線が維持できるかどうかということを示す予定ですので、ぜひご参加いただければと思います。
9	粗大ごみのネット申込みについて	粗大ごみのネット申込みについては、何か導入などについてのお考えは	粗大ごみのインターネット申込みの導入については、今具体的に検討をしているはず

	て	あるのかお聞かせください。どうしても電話だと申込みがなかなかしづらいというところと、D X 推進というところからも、そろそろネット申込みを始めていただきたいと思っています。	です。今のところ業務フローの見直しの検討ですが、近いうちに始めるべく今準備をしています。
--	---	--	--